ロサンゼルス・オリンピック出場選手決まる！

日本ハンドボール協会は、5月8日、ロサンゼルス・オリンピックに出場する選手15名と役員2名および支援役員2名を発表した。



昨年4月に発足した現ナショナルチームは、アジア予選までの短期決戦に備えて少数精鋭を選りすぐったこともあり、選手の体調を考えて個人エントリーの締切まで選手選考を留保したい意向だったが、5月末日までにというJOCの意向を受け、ヨーロッパ遠征中の選手のコンディションを聴取のうえ決定した常務理事会案を、5月26日および27日に開催された日本協会評議員会および全国理事会の承認を得て発表したものである。

今回は、JOCにおいてオリンピックの規程上目一杯の15名の選手枠が認められたが、そのために、16名の選手から2名をふるい落とすという、関係者には誠に過酷な選択を迫られるという事態になった。

結局、怪我など不測の事態に備えたGK要員の確保、左右両サイドの攻撃のバランス、身体的コンディション等を総合的に考慮して洞ケ瀬直幸選手（28歳）が選から洩れることになったが、同人の、中堅として練習、ゲームに対する真摯な態度、とくに昨年のアジア予選の前半に韓国に1敗し、チームが精神的にどん底にあったときにチームを発奮させてオリンピック出場権を日本にもたらしたその貢献に対し、あらためて心からの敬意を表したい。

オリンピック選手団に選ばれた選手は、湧永製薬、大同特殊鋼の各5名を中心とした、昨年のアジア予選の闘士そのまま。同予選後再任された市原監督、野田コーチのもとで、今年の2月ヨーロッパ遠征をして、オリンピックで上流を占めるヨーロッパ勢に対する戦略を研究し、そのディフェンス・シフトの一部は、先般のジャパンカップおよびスポーツフェアで披露した。

いままたヨーロッパに遠征し、イタリアカップ、ユーゴトロフィーなどのビッグゲームなどを体験して最後の調整をしている。

なお、選手村で選手団と行動を共にする支援役員として渡辺強化部長と高橋医事ドクターを派遣する。ナショナルチームの一宮コーチ（総務）と洞ケ瀬選手もロスに派遣することにしている。

ハンドボールのチームエントリーは5月28日に締切られたが、ソ連、東欧の一部、キューバがボイコットした場合、世界選手権Bグループ、アメリカ大陸から繰り上げ補充されることになるが、これは6月10日までにIHFからオリンピック組織委員会に通知されることになっている。

ク派遣選手団メンバー

5



主将② 山本　伸二
30歳　176　78
湧永製薬　名城大　61：258



ＧＫ① 大畑　孝宏
27歳　184　80
本田技研鈴鹿　日大　45：2



監　督 市原　則之
42歳
湧永製薬　修道大



ＦＰ③ 蒲生　晴明
30歳　192　90
大同特殊鋼　中央大　120：514



ＧＫ⑫ 井藤　英忠
25歳　185　83
湧永製薬　日体大　41



コーチ 野田　清
38歳
大同特殊鋼　立教大



ＦＰ④ 中本　満明
30歳　184　83
大同特殊鋼　安下庄高　69：35



ＧＫ⑯ 上村　幸彦
25歳　178　78
大同特殊鋼　中京大　8

団　長　渡辺慶寿
49歳　協会常務理事　自治医科大

チームドクター　高橋義男
35歳　協会常務理事　北海道立小児総合保険センター

支援コーチ　一宮昌平
37歳　協会強化コーチ　日体大

支援コーチ　洞ヶ瀬直幸
28歳　日新製鋼

ポジション　背番　氏名
年令　身長　体重
所属　出身校　国際試合の回数と得点

ロサンゼルスオリンピック
LOS ANGELS OLYMPIC

 ＦＰ⑬ 西山　清 25歳　181　78 日新製鋼　筑波大　35：168	 ＦＰ⑨ 佐々木信男 28歳　178　74 本田技研鈴鹿　東北学大　10：9	 ＦＰ⑤ 関　健三 29歳　180　80 三陽商会　中央大　50：84
 ＦＰ⑭ 高村　誠一 23歳　188　83 大同特殊鋼　日体大　16：27	 ＦＰ⑩ 志賀　良弘 28歳　188　90 湧永製薬　大阪体大　66：46	 ＦＰ⑥ 生駒　靖生 28歳　185　85 湧永製薬　京都産大　36：77
 ＦＰ⑮ 田口　勝利 22歳　188　83 大同特殊鋼　幡多農高　14：9	 ＦＰ⑪ 松井　幸嗣 26歳　178　77 幕張北高教員　日体大　21：29	 ＦＰ⑦ 池ノ上孝司 28歳　185　80 湧永製薬　日体大　79：259

◇日本各地で熱戦をくりひろげた国際試合

ジャパンカップ'84で全日本男子世界のユーゴに善戦

ジャパンカップ84はじめ、日本各地では、オリンピックイヤーに応わしく国際親善試合が花やかだった。ユーゴナショナルやスウェーデンの名門V・F・ヨテボリ（男子）、アメリカ（女子）など、世界の強豪が、それぞれ強豪ぶりを発揮、日本のファンを魅了したが、全日本男子もユーゴナショナルに堂々たる試合をみせたのをはじめ、湧永製薬がヨテボリを倒す健闘ぶりなど、国際試合をより意義あるものにしてくれた。

◇男子◇

■4月21日（土・大阪市中央体育館）

湧永製薬 22（13－9、9－9）18 VFヨテボリ（スウェーデン）

得	【湧永】		【ヨテボリ】	得
0	大城	GK	グスタフソン	0
0	井藤	GK	ランゲルストリョーム	0
3	池ノ上	FP	ウベルグ	6
5	生駒	FP	エリクソン	1
0	穂積	FP	マグヌッソン	1
2	藤本	FP	ダニエルソン	1
0	志賀	FP	R・スベンソン	2
1	中川	FP	オールソン	5
0	内田	FP	M・スベンソン	0
2	松本	FP	アーレルト	0
3	山本	FP	ブロールソン	2
3	原田	FP	イエプソン	0
0	楯原	FP	リュグヴィスト	0
0	津川	FP		
22	(3)	PT	(3)	18

（審・扇崎・井上）

■4月22日（日・愛知県体育館）

ユーゴスラビア 28（13－12、15－13）25 大同特殊鋼

得	【ユーゴ】		【大同】	得
0	アラノトビッチ	GK	上村	0
0	バシッチ	GK	秋吉	0
0	ブシニック	FP	山本	0
1	ルーニッチ	FP	田中	1
0	ブコビッチ	FP	田口	5
2	カリーナ	FP	高村	2
4	エレゾビッチ	FP	柳川	1
5	ソフコ	FP	大原	1
3	ストーバッツ	FP	中本	2
0	ユリナ	FP	河井	0
0	ブヨビッチ	FP	浦生	10
6	グズマノフスキー	FP	海江田	1
5	ラジェノビッチ	FP	市川	2
2	イサコビッチ	FP	名取	0
		FP	佐藤	0
		FP	森山	0
28	(3)	PT	(5)	25

（審・川島・森）

■4月22日（日・生駒市総合公園体育館）

V・F・ヨテボリ 32（13－9、19－15）24 わかくさクラブ

得	【ヨテボリ】		【わかくさ】	得
0	グスタフソン	GK	佐伯	0
0	ランゲルストリョーム	GK	小野	0
7	ウベルグ	FP	佐川	1
4	エリクソン	FP	阪本	0
2	マグヌッソン	FP	福西	1
2	ダニエルソン	FP	小林	2
6	オールソン	FP	金丸	8
5	M・スベンソン	FP	村田	4
0	ファールグレン	FP	菅沼	6
4	ブロールソン	FP	谷	2
1	イエプソン	FP	田中	0
1	エルベルグ	FP		
32	(4)	PT	(3)	24

（審・奥田・丸谷）

■4月25日（水・呉市立体育館）

V・F・ヨテボリ 24（12－12、12－9）21 日新製鋼

得	【ヨテボリ】		【日新】	得
0	グスタフソン	GK	西川	0
0	ランゲルストリョーム	GK	谷	0
10	ウベルグ	FP	森田	0
2	エリクソン	FP	泉	2
0	マグヌッソン	FP	徳田	1
1	ダニエルソン	FP	藤井	1
0	R・スベンソン	FP	吉見	0
1	オールソン	FP	潟ケ瀬	1
2	M・スベンソン	FP	脇若	0
2	ファールグレン	FP	日野	0
0	アーレルト	FP	森	2
0	ブロールソン	FP	甲渡	1
3	イエプソン	FP	一瀬	0
0	ゲルケ	FP	高木	2
1	エルベルグ	FP	西山	4
2	リュグヴィスト	FP	宮下	7
0	ハルトグレン	FP	堀田	0
0	ブラットベルグ	FP		
24	(5)	PT	(1)	21

（審・東・中本）

■4月30日（月・浦和市民体育館）

ユーゴスラビア 38（18－5、20－12）17 全日本学生選抜

得	【ユーゴ】		【学生】	得
0	アラトノビッチ	GK	渡辺	0
0	バシッチ	GK	山崎	0
0	ブシニック	GK		
3	ルーニッチ	FP	武田	0
3	ブコビッチ	FP	大木	1
4	カリーナ	FP	今村	0
4	エレゾビッチ	FP	加藤	2
5	ソフコ	FP	朝生	1
8	ストーバッツ	FP	杉森	2
0	マルデノビッチ	FP	金原	4
6	ブヨビッチ	FP	内藤	2
3	グズマノフスキー	FP	小関	1
0	ラジェノビッチ	FP	藤川	1
2	イサコビッチ	FP	酒巻	2
		FP	三幸	1
38	(3)	PT	(2)	17

（審・岡本・清水）

◇女子◇

■4月22日（日・愛知県体育館）

アメリカ 31（15－11、16－11）22 プラザー工業

得	【アメリカ】		【プエ】	得
0	ボイド	GK	畑添	0
0	ストーン	GK	大蔵	0
0	ハワード	FP	原田	0
2	リンゼイ	FP	竹内	9
0	クラントン	FP	赤井	3
9	ウィン	FP	中村	4
2	コントス	FP	増永	4
2	ド・ラ・リヴァ	FP	太田	1
0	トロンブレイ	FP	奥山	0
1	ドワイト	FP	森山	0
5	スティンガー	FP	松下	1
4	ヘイル	FP	山岡	0
6	ジョーンズ	FP	窪屋	0
0	ミラー	FP	池下	0
		FP	松藤	0
		FP	荒木	0
		FP	黒山	0
31	(3)	PT	(4)	22

（審・岩本・岩永）

■4月25日（水・日立栃木体育館）

アメリカ 29（15－10、14－9）19 日立栃木

得	【アメリカ】		【日立】	得
0	ボイド	GK	椿谷	0
0	ハワード	GK	葛生	0
0	リンゼイ	FP	栗原	0
0	クラントン	FP	西山	0
6	ウィン	FP	清水	0
6	コントス	FP	土屋	0
0	フォーレスト	FP	手打	0
0	リヴァ	FP	前田	8
0	トロンブレイ	FP	吉田	3
0	ドワイト	FP	山本	6
7	スティンガー	FP	山岸	1
6	ジョーンズ	FP	井沢	1
29	(1)	PT	(4)	16

（審・山下・浜野）

■4月28日（土・東京体育館）

アメリカ 29（16－15、13－12）27 大崎

得	【アメリカ】		【大崎】	得
0	ボイド	GK	梅野	0
0	ハワード	GK	藤田	0
0	ストーン	FP	大西	0
5	リンゼイ	FP	大日	0
0	クラントン	FP	宮嶋	0
10	ウィン	FP	石井	2
1	コントス	FP	時寛	4
3	リヴァ	FP	徳渕	3
0	トロンブレイ	FP	沖山	0
2	ドワイト	FP	深沢	0
0	スティンガー	FP	塩谷	0
0	ヘイル	FP	李相玉	8
8	ジョーンズ	FP	李京姫	10
0	フランコ	FP	西村	0
		FP	松尾	0
21	(0)	PT	(6)	27

（審・島田・後藤）

■4月30日（月・岩井市総合体育館）

日本ビクター 23（12－13、11－10）23 アメリカ

得	【日本】		【アメリカ】	得
0	渡辺	GK	ボイド	0
0	小口	GK	ハワード	0
13	志村	FP	ストーン	0
2	中根	FP	リンゼイ	4
0	門脇	FP	クラントン	1
1	長田	FP	ウィン	6
4	武藤	FP	コントス	1
0	遠藤	FP	フォーレスト	0
0	鈴木	FP	リヴァ	0
0	枝川	FP	トロンブレイ	0
2	下條	FP	ドワイト	0
0	平松	FP	スティンガー	5
0	根本	FP	ヘイル	0
0	高橋	FP	ジョーンズ	6
1	宮川	FP	フランコ	0
0	幾山	FP		
0	村上	FP		
23	(6)	PT	(1)	23

（審・横瀬・大澤）

■4月27日（東京体育館）

◇女子◇

日本 19（9－11、10－6）17 アメリカ

得	【日本】		【アメリカ】	得
0	井村	GK	ボイド	0
0	山口	GK	ハワード	0
1	岩村	FP	リンゼイ	1
3	寺沢	FP	クラントン	0
1	近藤	FP	ウィン	2
2	増永	FP	コントス	0
0	若木	FP	ド・ラ・リヴァ	0
4	前田	FP	トロンブレイ	0
0	時実	FP	ドワイト	0
0	山岸	FP	スティンガー	4
3	野嶋	FP	ヘイル	1
5	市川	FP	ジョーンズ	9
19	(5)	PT	(1)	17

（審・後後 島田）

女子ジャパンカップは、中国の来日が実現しなかったが、オリンピック開催で活発化しているアメリカ代表をむかえ、再編全日本の力を計る格好の機会となった。

GK井村を軸に、左から増永、前田、時実、岩村、寺沢、近藤でスタートする。

リバンドで得たPTを、新戦力市川が決めれば、アメリカも、ポストでのPTを、スティンガーが決め、固さをとるが、日本は、ポジションチェンジの激しい攻撃から、前田が、速攻をはさみ、ロングPT奪取の活躍で4対1とするが、中央への攻撃を、高い守備陣が効果をあげだす。

守備が整うと、フローターのジョーンズ、ウィンの三連取で、6分4対4と追いつき、予断を許さない展開となる。

高さに対する課題をもつ日本は、執拗に中央突破を試みるが、逆に圧力を受け、凡ミスが続出し、自からペースを失う。

この期にアメリカは、スティンガーのステップをはさみ、ジョーンズが、豪快なロングシュートで逆に3点のリードを奪う。

新シーズン前の制約上無理かと思われるが、KEYプレーの必要性を痛感させられる。

18分、野嶋、市川を投入して局面の転換を計ると効を奏し、寺沢にも当りがもどるが、アメリカフローターの動きがさえ、9対11で前半を終る。

後半に入り、増永が、巧みなフェイントからサイド、45ブロックからの飛び込みで、PTを連取逆転するが、ジョーンズの好守から速攻を許し、再度2点差とされる。8分、井村がロングを好捕すると、日本の積極的な守備が実りだし、市川のステップ、近藤、増永の速攻で逆転、更に岩村が、ポストでループの巧シュートを決め息をつく、3点のリードで、守備に積極性がなくなると、すかさずジョーンズが、巧みなロングで連取し急迫するが、疲労の見えるアメリカを、PT、前田のカットインで突き放し逃げきった。

勝負どころでの好守備は、評価できるが、再三アメリカは守備陣にボールを当てる攻撃は、審判の判断、守備の連繋で結果が変わることを考えると、今後に課題を持ちこした試合であったと思う。

◇男子◇

ユーゴスラビア 33（17－7、16－13）20 バストラフレルンダヨテボリ

得	【V・Fヨテボリ】		【ユーゴ】	得
0	グスタフソン	GK	ブラノトビッチ	0
0	ランゲルストリューム	GK	パシッチ	0
5	ウベルグ	FP	ルーニッチ	0
6	エリクソン	FP	ブコビッチ	2
1	ダニエルソン	FP	カリーナ	8
2	オールソン	FP	エレゾビッチ	3
1	スベンソン	FP	ゾフコ	3
1	ファールグレン	FP	ストーバッツ	3
1	アーレルト	FP	ブヨビッチ	1
1	ブロールソン	FP	クズマノフスキー	5
0	イェブソン	FP	ラジェノビッチ	4
0	リュグウィスト	FP	イサコビッチ	4
0	マグヌッソン	FP		
2	スベンソン	FP		
20	(1)	PT	(2)	33

（審・上久保 北井）

低迷しているとはいえ、伝統国スウェーデンのクラブチームが、世界2位のユーゴとどういどむか興味がもたれた。

開始早々左腕クズマノフスキーのロングで口火を切れば、ウベルグのシュートブロックから、オールソンが速攻で返す。

ユーゴが攻撃の中心選手を外側2人目に置き、中央を中型の動きの良い選手の激しいアタックする守備体形をとるのに対し、スウェーデンは、長身のロングヒッターをセンターに並べるシステムを用いるが、それぞれのディフェンスシステムの効果を示しあう展開となった。

スウェーデンは、サイドの回り込みをからませ、フローターのパスの交換から、中央でウベルグ、マグヌッソンらがロングをねらうが、ポストの動きを封じられ、思うようにチャンスを作れない。

ユーゴは、シュートブロック、パスカットから速攻でGKグスタフソンの堅陣を突破する一方、エゾレビッチ、ムラドノビッチが豪快、軽快なロングを打ち込み6連取し、15分に8対2とする。

しかし、両GKの好守で得点差を感じさせない好内容の試合となる。16分スウェーデンはウベルグのロングが決まると攻守がかみ合い、速攻の連続で急迫するも、ユーゴはブヨビッチの巧妙なパスを軸に、ロング、ポスト、速攻と自在な攻撃でスウェーデンを翻弄、再度の6連続得点で10点差で前半を終了した。

後半ユーゴがエレゾビッチを外す余裕を見せると、ウベルグのロング、若手エリクソンのサイド、スベンソンの速攻で得点を重ね意地を見せるが、ユーゴは要所で守備の圧力を増し速攻、ワンドリブルを用いた変化の激しいフローターのカットインに豪快なロングを織り込み、世界の力を示した。



スポーツフェアでは、森文部大臣も大野専務理事と並んで観戦

スポーツフェア

◇男子◇

■5月2日（代々木第一体育館）

ユーゴスラビア 26（13−2、13−12）14 日本

【日本】	位置	得
大畑	GK	0
井藤	GK	0
上村	GK	0
山本	FP	2
蒲生	FP	4
中本	FP	0
関	FP	1
生駒	FP	2
池ノ上	FP	2
洞ケ瀬	FP	0
佐々木	FP	0
志賀	FP	0
松井	FP	2
西山	FP	1
高村	FP	0
田中	FP	0
PT		(1)
		14

【ユーゴ】	位置	得
アラノトビッチ	GK	0
バシッチ	GK	0
ブシニック	GK	0
ルーニッチ	FP	3
カリーナ	FP	4
エレゾビッチ	FP	4
ゾフコ	FP	2
ストーバッツ	FP	0
ブヨビッチ	FP	1
グズマノフスキー	FP	2
ラジェノビッチ	FP	4
イサコビッチ	FP	6
PT		(1)
		26

（審・斉藤 千野）

横浜での対戦、合同練習で手の内のわかってきた両チームは、日本の5人がフリースローライン附近までつめる体形に対し、ユーゴもボール保持者にダブルチームで当る1、2、3と、共に積極的な防御を敷く。

このためか共に2本のシュートを外し破乱のスタートとなる。

2分蒲生が中央から巧みにGKの又下にゲットすれば、ブヨビッチのポストへの好パスPTとすぐに返す。4分2度の警告を受けるが、攻撃的な日本の防御が攻撃での活力につながり、山本がサイド、速攻でのPTを決め先行する。しかし、ユーゴもフローターのずらしからクズマノフスキーが飛び込み差をひらかせない。

6分蒲生が中央よりタイミングをずらしたカットインでサイドシュートを決めるが、退場者が出ると1人マンツーマンをかける防御網の術中にはまり、速攻2本でたちまち同点になる。10分すぎ日本守備陣の大きな動きに攻撃が適応しだすと、エレゾビッチ、ブヨビッチの両フローターにポスト、サイドが合い、多彩なプレーで着々と加点する一方、イサコビッチの自在のフットワークの速攻で、主導権を握る。試合後「今日は勝ちにいった。」と、気力を見せる日本は、池ノ上、松井の芸術なシュートを含め、全員のむらのない攻撃で食い下がり、12対13で後半への期待を持たせて終了した。

後半に入るとユーゴは、完璧な防御から速攻を続発させ、13分間完封の間に6連取で12対19と一方的な力で試合を決めた。

早いと言われる日本のゲームプランも、パスにたよる為めか、フロントコートでのアタックを破れないのに比べ、ボール保持者の変化をもたせた突進から、カットイン、ラストパスをねらうユーゴの速攻の効果ばかりが目立った。

14分松井の果敢なパスカットから関が決めるが大勢に変化なく、その後も松井の豪快なサイドシュートのみの2点で、ユーゴの守備、GKバシッチの前に大敗した。試合後のユーゴのボクラヤク監督談話にあったように、「良いプレーと悪いプレーの差は非常に小さい。」と言うことが印象的だった。

■5月3日（代々木第一体育館）

ユーゴスラビア 24（11−10、13−9）19 日本

【日本】	位置	得
大畑	GK	0
井藤	GK	0
上村	GK	0
山本	FP	4
蒲生	FP	5
中本	FP	2
関	FP	1
生駒	FP	0
池ノ上	FP	1
洞ケ瀬	FP	0
佐々木	FP	0
志賀	FP	0
松井	FP	1
西山	FP	3
高村	FP	0
田口	FP	2
PT		(3)
		19

【ユーゴ】	位置	得
アラノビッチ	GK	0
バシッチ	GK	0
ブシニック	GK	0
ルーニッチ	FP	1
カリーナ	FP	1
エレゾビッチ	FP	3
ゾフコ	FP	4
ストーバッツ	FP	2
ブヨビッチ	FP	4
グズマノフスキー	FP	1
ラジェノビッチ	FP	4
イサコビッチ	FP	4
PT		(0)
		24

（審・斉藤 千野）

休日とあって、代々木体育館をうめた大観衆の熱気と、スポーツマンの森喜朗文部大臣の両チーム選手一人一人に対する激励で、いやがうえにも盛りあがった。

試合は、敗れはしたものの、ユーゴの持てる力を全て引き出す、スリリングな場面を連続させ、オリンピック代表の力を印象づけた。

日本は、このシリーズ初めて、エゾレビッチにマンツーマンで洞ケ瀬をあてる作戦でスタートした。開始早々山本が右サイドでパスフェイントから先制、スカイからポストへ巧パスと、主将の意地を見せれば、ユーゴもGKバシッチの堅守からポスト、速攻とゆずらない。

11分半、池ノ上のパスで中本が決め、3対3とする。

両チームとも選手交代を生かした激しい防御をしき、オリンピック前哨戦にふさわしい展開となる。14分、小さなミスをついて、イサコビッチが速攻を確実に決め、ペースをつかむと、速攻、ロング、ポストと多彩な攻撃で着実に加点、21分5対9とする。ここでGKに大畑を投入するが、流れは変わらず、蒲生、池ノ上でロングを打ち込む日本の追撃を許さず、28分7対12と差を広げる。

しかし、前日の轍を踏まない気力を燃やす日本は、大畑が速攻をセーブすると、松井が左サイドから回り込み、芸術的なサイドハンドシュートを決めれば、中本もサイドから打ち込み、新旧の方の競合を示す。

しかし、ここでエゾレビッチが、高打点から強烈に決め9対13で前半をしめくくった。

ハーフタイム、チアガールによるアトラクション中、両チームは、入念なウォームアップを行う。外国チームが国内で初めて見せる姿は、後半への期待を高めた。

（ラジュノビッチ）が右45度からロングを打ち込み後半の戦端を開けば、日本も、ポストの回り込みで得たPTを山本が決め、会場の声援にこたえる。3分蒲生が左45度から円熟のシュートを見せれば、外人特有の上体の強さを生かしたロングで応酬、いよいよ白熱する。ここで又、エゾレビッチが、世界のエースの力を見せつける豪快なステップシュートで連取すれば、足の回復したブヨビッチも、速攻、強引なカットインで続き、14分11対20とする。しかし、GK井藤の好守を軸とする守備陣の奮闘は、点差を感じさせない。

16分、不振をかこっていた西山がロングを決めると攻撃の連係に鋭さがもどり、蒲生のカットイン、西山のロング、速攻で反撃ののろしをあげる。時間を意識し、早く安全圏へ逃げ込みたいユーゴは、サイド、ポストを多用し、加点するが、持ち味のフローターの果敢な攻撃が陰をひそめた消極的なゲームプランは、逆に日本の反撃に油をそそぎ、田口のロング2発、関の脇下シュートの急迫を許し、横浜での試合と同じ19対24での終了となった。

得点、差とも今後の日本に希望をあたえる結果となったが、勝負どころでの防御圧力のかけ方、シュート力等実力差を見せつける場面は、全日本への課題を具体的に示したものとして、実りの多いシリーズであった。



昭和59年2月16日㈭〜3月6日㈫の20日間の日程で、以下のメンバー構成で全日程を消化したので報告する。団長渡辺慶寿、監督市原則之、コーチ野田清、一宮昌平、選手GK、大畑孝広（本田技研鈴鹿）、井藤英忠（湧永製薬）、上村幸彦（大同特殊鋼）、FP、主将山本伸二（湧永製薬）、副将蒲生晴明（大同特殊鋼）、中本満明（大同特殊鋼）、生駒靖夫（湧永製薬）、池ノ上孝司（湧永製薬）、佐々木信男（本田技研鈴鹿）、洞ケ瀬直幸（日新製鋼）、志賀良弘（湧永製薬）、松井幸嗣（千葉教員）、西山清（日新製鋼）、高村誠一（大同特殊鋼）、田口勝利（大同特殊鋼）の総勢19名である。

男子ナショナルチーム欧州遠征報告

多くを学んだ12試合
ロス・オリンピックへ大きな収穫

7勝2分3敗

2月16日PM5：05成田を立ち、ホンコン、カラチを経由して、2月17日フランクフルト、オスロに向けフライトした。ノルウェーで、2月18日、19日の両日2試合をこなし、2月20日オスロを立ち、フランクフルト経由でユーゴスラビアのザグレブに着く。ユーゴスラビア10日間の滞在8試合、その後西独に飛び2試合を消化、全日程12戦して、7勝2分3敗して3月5日帰路についた。

今遠征の目的は、ロス・オリンピックに向けヨーロッパチームに慣れること、現有の戦力を増すこと、特に若手選手の技量の向上、GKの相手の投球に慣れることによって、チーム全体の向上とを計るものである。従って、勝敗を度外視したものである。結論から示せばその目的は充分に達成できたと確信する。特にDF面の戦術は、大型チームに対処するのに成功を収めたと思われる。シフトは3：3、あるいは1：2：3は、ユーゴの各地で成果を挙げることができた。

ユーゴのSNOJ IVAN氏は、日本チームの感想および今後の課題として、小型チームなので速い攻防が要求されるであろう。攻撃については2人の速攻にとどまることなく、6人の連繋された攻めが威力を発揮するであろうし、防御はゾーン、マンツーマンが効を奏するであろうと述べられた。

ついでにその他の点について述べていただいたので記しておく。ミスは相手に1点を与えるようなものであり、あらゆるミスは、禁物である。特にパスキャッチ、シュートミスは慎むべきで、どのような秀れたテクニックを持ってもミスをしては、負の要因となる。日本チームに対して示唆を与えてくれた。

第2の成果は、GKの成長であろう。大型選手や外人特有の投球に慣れたといえる。この点を捕えても、今後の日本チームの大きな戦力にもなるし、欧米チームより接近することにもなる。GKは、チームの要めでもある。自信がつけば、全体の向上にも繋る。

第3は、今遠征の目的にもあるごとく、若手選手の養成である。技量向上と気持の高揚は、当然のことながら、チーム全体の厚い層にもなる。若い選手にとって、体験を重ねることは、刺戟になるし、自己の力を目ざめることにもなる。この点、今遠征で市原監督は、随所で若手起用を試み、選手はそれに答えたといえる。

現地のハンドボール熱

オスロより、約160kmの地にあるSKIENで第1戦を行なった。ご存じのようにオスロは、ノルウェー第1の都市であり、ノルウェー南部のフィヨルドの奥に位置している。バイキングの根拠地でもあった。現在の人口は、約50万人である。したがってノルウェー全体の人口も、われわれが想像するよりも遙かに少ない。

ノルウェー・ハンドボール協会は、27の地方協会を抱えており、全体で900チームを有するという。ノルウェーのハンドボールは、男子よりも女子が盛んであるという。その割合は、6：4である。第1戦を行なったSKIENSHALLENは、ハンドボールコートが3面とれる体育館であり、われわれの目を驚かせた。

ノルウェーナショナルチームは、この時期ラウンドキャンプ中

であり、キャンプ中に日本と対戦した。チームは、かなり大型である。(具体的な資料の提供を要求したが、答へはなかった)。また、体力トレーニングをよくやっているようでもあり、上半身の発達は、日本の比ではない。合理的トレーニングによるパワーフルな動きであった。

第2の目的地ユーゴスラビア社会主義連邦共和国は、ヨーロッパの東南に位置し、領土の大部分は、バルカン半島にあり、人口約2000万人、首都はベオグラードである。また、連邦国家でもあり、6つの社会主義共和国、スロヴェニア、クロアチヤ、セルビア、ボスニヤ＝ヘルツェゴヴィナ、モンテネグロ、マケドニヤと2つの社会主義自治州であるヴォイヴォディナ、コソヴォから構成されている。今回は、ユーゴの第2の都市クロアチヤ共和国の首都で、ベオグラードの北西約420㎞に位置するザグレブ（人口約70万人）を起点にVelenje, Celje, Krenj, Ajdovscna, Sezana, Ljubljana, Ribnica, Krskonのクロアチア共和国内の各町市を転戦した。

ユーゴハンドボール協会理事長SNOJ. IVAN（ミュンヘン・オリンピック優勝監督）が、われわれを空港に出迎えてくれ、それ以後、四六時中、日本チームのために尽力下さったことは、特筆すべきことである。

ユーゴのハンドボールは、現在サッカーに次いで人気スポーツであるという。人口3000人の町には、必ずハンドボールを行なう体育館があり、全国で300箇所はある。また、IHFに加盟しているクラブは、1660チームある。各クラブには、男女チームとジュニアの男女チームを有するので、IHF主催の大会に参加できるチームは、実に4倍の数にも達することになる。

11年前の1973年のユーゴ選手権大会には、13801チームが参加したという。ハンドボールは人気の一途を進行している。この人気の原因は何かとSNOJ氏に尋ねた。即座に「勝つことだ。1972年のミュンヘン・オリンピック優勝するまでは、ユーゴにはハンドボールができる体育館はなく、ミュンヘン・オリンピック以後、次ぎ次ぎと体育館ができ人気があがった。」

では優勝するための当時の試みとして、SNOJ氏は、どの様な策をとったのであろうか。ミュンヘン・オリンピック前は、西独チームに29：9ぐらいで敗れたという。しかし挫けないで、強いチームと何回もマッチを試み、オリンピック前には、かなり強いチームとスコア、内容で接近でき優勝したと強調し、SNOJ氏は当時の模様を回想して話してくれた。

単に強いチームと対戦することが勝利に繋る要因とは思わないが、SNOJ氏は、かなりの自信と選手の素質を考えての当時の対策であったと思われる。

各国のナショナルプレーヤーは、年間の公式試合数をSNOJ氏より聞いた。ユーゴの場合、1部リーグ14チームあり、年間総当り2回で26試合、その他の試合が12試合、国内では38試合行なう。1983年の場合、国際試合は、33試合で合計79試合にもなるという。ポーランドの場合は、84試合にも達する。ソ連では国内全体の統一された試合はないが、6つの共和国で、それぞれ10試合を行なっていることだが、大部分は、ヨーロッパにでかけ60試合をこなしている。

島国日本では考えられないほどの試合数である。今後日本がこのハンディをどの様に埋るかは大きな課題となろう。

ユーゴ滞在は、日本チームにとって意義あるものであったことは、勿論であるが、各地での心温る歓迎に感謝するとともにユーゴハンドボール界の層の厚さに驚嘆した。また、SNOJ氏の各地でみせた人格は、私の脳裏に深く焼きついた。

ザグレブ空港を3月2日に飛び立ち、西独フランクフルトへと向った。空港にはヘッセン州の理事長カッサン氏の出迎えを受けた。バスで約1時間15分ぐらいでホテルに着く。カッサン氏の妻娘に花を贈ってもらったことは、旅の疲れを忘れさせる心温る歓迎であった。

試合は、エグゲンスティンとヘッセンでの2試合で、2ヶ所での歓迎は、ナショナルチームの権威を重じてくれたものであり、市長はじめ理事長の後援、西独体育協会理事長らによってもてなしてくれた。レセプションは陽気そのものであった。特に3月4日は、日本デーであった。関東学生男女選手団と同一の場所で試合をし、若いエネルギーが満載される中でレセプションが行なわれた。

日本のナショナルチームを含め一手に引き受けてくれたことは、カッサン氏に感謝するとともに、その力には驚かされた。

国際感覚を取り得た学生選手が将来ナショナルチームに投入されることは望ましいことである。藤原団長も目を潤ませながら、女子選手の中には、ナショナルチームの一員として活躍できる人材がいるし、必ず入るであろうと遠征の目的に自信ある発言をしてくれたことは喜ばしいことであった。

〈試合結果〉——12ゲームの詳報

■2月18日(土) SKIEN
PM：6：00、観衆700
日本 13（6−19 / 7−12）31 ノルウェー

ノルウェーナショナルチームとの第1戦は、日本のスローオフによりはじまる。生駒、池ノ上とが連続して、シュートを重ねたが、GKの好守に阻まれる。しかし、日本はセットより池ノ上の右前方よりステップシュートを決める。その後、ノルウェー9番ポストよりループシュートを決め1対1とした。日本は、生駒の左前方より、ゴール右下にバウンドシュート、池ノ上のカットインを相手反則、フリースローを田口まわり込んでボールを受けシュート3対1とした。

その後ノルウェーは5番の中央よりのジャンプシュート、4番右前方よりフェイントシュートを決め、3対3の同点とした。日本は大畑の再々に亘る好守があったものの、前半西山左前方、池ノ上のペナルティースロー、中本のカットインプレーによる得点に留まる。一方ノルウェーは、日本のシュートミスによる速い攻めやポストプ

レー、カットインプレーによって、かなり自在に得点を重ねた。

後半も前半同様、GK井藤の好守があったものの、旅の疲れも重なり、日本はミスが目立ち、相手を撹乱するまでに至らなかった。ノルウェーGKの好守も見逃せない。ノルウェーチームは、かなりの体力トレーニングを積んでいるようであり、体格的には胸厚であり、動きも、シャープであり、シュートもパワフルであった。

■2月19日 LORENSKOG
PM：5：00 観衆500
日本 24（14－13／10－17）30 ノルウェー

ノルウェーは、第1戦のメンバーを少し変えてのスタートである。日本スローオフ。いきなり生駒中央よりシュートを決める。ノルウェー5番左サイドで、ポストからボールを受けシュートを決めて、1対1としたが、日本は西山のサイドよりのフェイント、蒲生の左側前方よりのシュート、池ノ上のペナルティーを決め4対1。その後ノルウェー5番右サイドシュートを決め4対2とするが、西山、蒲生、中本のポストシュートによって日本は7対2と大きく引き離した。しかし、ノルウェーは、ペナルティースローを得てから勢いづき、№13はボールを片手でもらって立ったままのシュートやカットインプレーによるシュート等によって連続4点を得、当りに当っており8対6とした。

前半15分ノルウェーは、第1戦のメンバーと入れ替え、11対12と逆転し、前半の終り近くは、1点を争う展開となったが結局前半終了4分前速攻を中本決め14対13で日本1点をリードして前半を終了した。

後半20分までは、池ノ上、山本、西山、松井、GK井藤、上村の活躍によって1点を競う攻防となったが、残り時間10分からノルウェーはGKの好守もあったことや日本のシュートミスを利用して、3番、4番を中心に着々と得点を重ね、結局6点差では日本チームを破った。

■2月21日 Velenje
PM：6：00 観衆1000人
日本 25（11－12／14－13）25 SOSTANJ

ユーゴでの第1戦SOSTANJチームは、№3、№14は大型選手で195㎝あるという。SOSTANJスローオフ。試合は、前半、後半を通じて1点を争う攻防であった。日本チームかなり時差等の悪条件が解消され、体調もよくなってきているが、試合全般を通じて、相手につきあってしまった感じがある。しかし相手の長身に対して日本は、マンツーマンに近い防御で相手の攻撃を阻止、功を奏した。

前半、日本は、生駒、池ノ上を中心に志賀、西山、高村、田口を起用、高村、田口は自分のプレーを伸び伸びと披露してくれたことは収獲だ。日本はGK大畑の再三に亘る好守にも助けられた。前半終了3、4分前に洞ヶ瀬のポストが決まり、11対11としたが、終了直前3番シュートを決めSOSTANJ 1点リードで前半を終了。

後半も前半同様1点を競う試合展開となった。日本は、田口、生駒、中本、西山、松井、志賀、池ノ上とシュートを決めた。最後まで試合は縺れ、残り時間7分西山左前方よりのカットインより24対23としたが、14番の変則シュートで24対24、その後3番シュートを決め24対25と逆転、これで決るかと思ったが西山の相手ミスを利用しての速い攻めで同点にし終了した。GKの守りの重要性を教えてくれた一戦といえる。

2月22日 Celje
PM：6：30 観衆200人
日本 25（11－12／14－15）27 aero

ユーゴでの第2戦はCeljeにある製紙会社のクラブであるaeroと対戦、第1戦チーム同様このチームも3番、10番と長身の選手を揃えている。試合の展開も前半は、1点を争う攻防となった。日本は、この遠征で特にDFについて特に積極策をとり、大型な相手に対して、前方へのアタック防御を見せ、成功している。前半1点差でaeroリードで終る。

後半に入りaero10番のシュートが左下に決まり2点リード。日本は、西山のパスを受け山本がシュートを決める。山本は連続3点をあげ逆転し、その後3点まで離し形勢は逆転するかに見えたが、aeroは、残り時間10分10番、2番、5番。の活躍があり、21対21の同点とし、激しい攻防があったものの2点差で日本チームの負けとなる。

■2月24日 Kreni
PM：6：00 観衆500人
日本 19（10－10／9－8）18 Jelovica

Jelovicaスローオフ、日本は西山の左サイドフェイントにより1点を先取。その後7番のシュートが決り1対1となり、日本は上村の好守もありよい展開であったが、前半は1点を競う攻防となり、10対10で終る。

後半も逆転につぐ逆転で、会場を沸かす。

日本は、19分池ノ上のシュート、生駒の速い攻めによって、2点をリード、このまま引き離す勢いであったが、Jelovicaは、左利き7番のサイドシュートが決まり、執拗に食い下り、2点以上の差を許さなかった。

日本は今遠征初の勝利である。



■2月25日　Ajdovscna
PM：7：00　観衆300人
日　本　28（15－14、13－10）24　LIPA

日本スローオフ、蒲生、山本、生駒、池ノ上、志賀、GK井藤でスタート。いきなり蒲生は相手防御陣前方よりシュートを決める。すぐに同点とされたが、山本、蒲生のシュートが決まり余裕のあるスタートである。LIPAは、5番の中央よりフェイントをかけてのシュートや10番のシュートにより得点を重ねたが、山本、蒲生、志賀による攻撃展開あるいは、中本、生駒による展開によって、3点、4点差と離していった。20分GK井藤は相手のシュートを受け、相手GKが前方に出てきたところを直接シュートをし得点とし、観衆の盛んな喝采を受けた。しかしLIPAは、前半の終り6分頃より3番、13番等によって得点を重ね、1点差まで追い上げた。

後半、LIPAは、1点差をより縮めんと、盛んに攻めたが、GK大畑はそれをよく阻止した。また、田口は、左前方よりまわり込み、あるいは、カットインしシュートを決め、チームに貢献した。LAPAは、日本のDFの連続的な当りに戸惑いぎみであるが、15分頃までは食い下ったものの松井、蒲生、ポストの佐々木にボールを落として佐々木得点、あるいは佐々木のサイドシュートが決まり結局4点差で終る。

■2月26日　Sezaua
PM：6：00　観衆300人
日　本　24（10－9、14－13）22　Jadran

前半日本は、GK井藤の好守や、井藤の直接シュートによる得点により、内容としては余裕のあるものであった。また、20分までに松井、高村、中本、池ノ上、生駒のシュートがよく決まり、10対5とリードした。しかし、Jadranは前半終り頃より、日本のシュートミス、あるいはペナルティーの反則により着々と追い付き、1点差として前半を終了した。

後半Jadranは、DFを1－5シフトを引き、日本の攻撃を受けとめ、7分には13対13の同点にした。日本のオーバーステップの反則を速い攻めでこの試合初めてリード。山本がサイドよりシュートして決めたものの、再び日本はパスミスでリードされた。16分には3点をリードされた。日本はその後蒲生、池ノ上の得点によって26分に20対20に追いつき、再三に渡りリードを許したものの高村、山本、中本の活躍によって試合終了間際に決着をつけた。

■2月28日　Ljubljana
PM：7：00　観衆300人
日　本　27（16－14、11－9）23　Kolinska

Kolinskaはユーゴリーグ一部13位のチームで、長身揃いである。中でも8番は2m級である。前半日本は、Kolinskaを終始リードした。相手チームが長身であるため、2－4のDFシフトを引き、前方よりの攻撃に備えた。また、攻撃要員と防御要員とをうまく使い分け、体力的消耗を防いだ。一方Kolinskaは、ボールをもってのフェイント攻撃の連続であるが、日本の積極的防御アタックに惑わされぎみであったが、得点差を4点に開いたのが最大で前半終了時には2点差につめよった。

後半14分、日本は退場により4名となり、しかも蒲生がマン・ツー・マンでつかれながらも、山本左サイドを抜き得点をし危機を脱し18分には、連続した速い攻めで6点差まで開いた。しかしKolinskaは、5番右サイド1回転フェイ

ントや日本のシュートミス、あるいはキャッチミスにより得点を重ねたが、差は縮まらず、終了間際、蒲生、山本、中本のコンビネーションによるスカイプレーが決まり終了した。

■2月29日　Ribnica
PM：6：00　観衆500人
日本 24（16－10／8－13）23 Inles

日本スローオフ、洞ケ瀬ポストでボールを受けたがペナルティー、佐々木シュートを決める。Inles 3番前方よりシュート決め、1対1前半10分までは、1点を競ったが、その後日本は、蒲生、佐々木、中本によって一時3点差とした。しかし試合はInlesのねばりによって、前半24分までは互いに得点を重ね、両者互角であったが、蒲生のステップシュート、生駒の速攻、松井、西山のサイドシュートが決まり、3点をリードして前半を終る。またGK、上村の好守が目立った。

後半日本は10分までに4点をリードしたが、パスミスやシュートを阻止され、21分には同点とされ、1点を競う展開となり、29分32秒、山本、中本によるスカイプレーによって、得点をし押しきった。

■3月1日　Krsko
PM：7：00　観衆500人
日本 22（12－10／10－12）22 Krsko

ユーゴにおける最後の試合である。相手のチームは若く、20代が3名であとは10代である。日本も若い選手を中心にスタート。

佐々木ペナルティーを決め先取したが、その後終始Krskoチームがリード、17分には3点のリードを許した。

Krskoは、若いだけに隙をみせると、乗りに乗る。

しかし日本は、21分頃から、田口、松井のコンビネーションの威力が出、1点差そして同点に追いつき、残り時間25秒で6番のパスミスを利用して佐々木速攻でリードしたが、その後6番前方よりシュートを決め同点で前半を終る。

後半2番はポストよりシュートを決め、再びKrskoがリードをはじめたが、後半戦は終始同点あるいは両者1点のリードで試合が展開され、試合終了1分40秒、生駒が左サイドよりまわり込み得点、日本1点リードで終了と思われたが、Krosko 6番前方よりシュートを決め同点で終った。

■3月3日　西独エグゲンスタイン
PM：5：00　観衆300人
日本 27（13－11／14－7）18 エグゲンスタイン

前半16分までは、1点を争うゲームとなったが、日本は7番のシュートを大畑好守、蒲生走って右側よりシュートや池ノ上のペナルティースローによって3点をリードして前半を終了した。

後半も大畑の好守によってエグゲンスタインは、得点が入らず、生駒、西山、山本、中本のシュートが決まり、大きくリードし、試合を決した。

■3月4日　ヘッセン
PM：5：00　観衆200人
日本 24（11－8／13－6）14 ヘッセンジュニア選抜

前半10分西山の速攻やサイドシュート、前方よりのシュートと連続3点を挙げ有利に展開した。

しかしヘッセンも5番の強引なシュートや左サイドシュートを決め食い下がった。14分蒲生、西山サイドよりボール頭上にあげての下手投げ、生駒の横に一歩ずれてのシュートが決まり5点リード、ヘッセンもペナルティーあるいは9番のカットイン等に対抗したが、生駒よりポスト山本ボールを受けて得点や山本のペナルティースローが決まり、5点差は縮まらなかった。

後半GK井藤の好守があり、日本は速い攻めに徹し、田口、高村が得点をする。その間山本、池ノ上のペナルティースローが決まり、13分には7点差となる。ヘッセンのシュートミスもあったが、上村のパスカットより単独ドリブルシュートや松井のシュートが決まり大きくリードして終了した。

海外遠征記録 ——その体験が大きく羽ばたく

関東ジュニア 大阪高校選抜西ドイツで健闘

大阪高校選抜西ドイツ遠征
男子は9戦5勝4敗 女子は7勝2敗


西独遠征した関東ジュニア

高校1、2年生で編成した男女チームは恒例になった西ドイツ遠征で大きな成果をあげた。

8日間に6試合と2回のトレーニングという、かなりハードなスケジュールだったが、ホームスティの楽しさと、西独関係者の暖いもてなしで、全員、十分に意義ある遠征の日々を過した。ヘッセン州カッセル市はグリムなどの童話の故郷といわれる町であり、選手たちは若いだけに、すぐにこの町にとけ込んだようだった。

成績は男子が4勝2敗、女子は3勝3敗と健闘したが、男子田中監督は「日本とさほど差はないが体力、意気込み、トレーニング方法のちがいを感じた。施設の充実はうらやましい」女子原監督は「体力差はもちろんだが、個人技、フェイントカ、シュートの確実性など見習うべき点があった」とそれぞれ印象を語っている。

選手たちも、スピード、カットインプレーなどの技術面に大いに得るところがあったようだ。

そして西独で多くの友人を得たことも、彼らにとって有意義な遠征であった。

◇男子◇

▼第1戦 3月23日
関東ジュニア 29（15－7、14－10）17 バードゾーデン・アルフレンド

▼第2戦 3月24日
関東ジュニア 31（18－17、13－13）30 カッセル選抜

▼第3戦 3月26日
関東ジュニア 19（9－7、10－6）13 ヘルマニア

▼第4戦 3月27日
ゲーテシューレ 24（16－13、8－10）23 関東ジュニア

▼第5戦 3月28日
関東ジュニア 23（15－7、8－9）16 イーリング・ハウゼウゼン

▼第6戦 3月29日
ホーフガイスマー選抜 21（15－10、6－9）19 関東ジュニア

◇女子◇

▼第1戦 3月23日
バードゾーデン・アルフレンド 12（6－4、6－3）7 関東ジュニア

▼第2戦 3月24日
カッセル選抜 14（5－7、9－4）11 関東ジュニア

▼第3戦 3月26日
関東ジュニア 16（9－7、9－4）11 ヴォルフスザンガー

▼第4戦 3月27日
ゲーテシューレ 15（7－10、8－4）14 関東ジュニア

▼第5戦 3月28日
関東ジュニア 18（9－3、9－4）7 イーリング・ハウゼウゼン

▼第6戦 3月29日
関東ジュニア 16（8－6、8－4）10 ホーフガイスマー選抜

関東ジュニアハンドボール研修防独団メンバー

団長	三浦 公	関東学院
総務	岡 仁	
	大塚 由梨	
〈男子〉		
監督	田中 秀美	浦和学院
GK	小林 義和	浦和学院
	佐賀 真一	土浦一高
FP	山田貴代志	川崎北高
	高橋 宏治	浦和学院
	大脇 貴司	川口工高
	佐藤 雄	〃
	増田 貴哉	川口北高
	三上 吉彦	浦和市立南
	大島 冬樹	桐生工高
	福本 順	浦和西高
	中島 寿夫	前橋商高
	石沢 一也	〃
	杉村 善之	江戸川高
〈女子〉		
監督	原 信雄	藤村女子高
GK	梅津 直美	国学院栃木
	上田 麻希	群馬女子短大付高
	滝上 陽子	藤村女子高
	佐藤 尚子	〃
	井村由美子	〃
	篠崎 尚子	〃
	高瀬 美香	〃
	岡野奈緒美	〃
	大原さゆり	〃
	佐藤 真理	〃
	瀬尾エミ子	浦和市立高
	大間 千春	国学院栃木
	小林喜代子	吉井高

関東ジュニア研修西ドイツ遠征
男子は4勝2敗 女子は3勝3敗

大阪高校選抜の西ドイツ遠征は2年前につづいて、今回で2度目である。男子は9戦して5勝4敗、女子は7勝2敗と健闘。ヨーロッパの空気と技術を学んだ実り多い遠征だった。

◇男子◇

▼第1戦 3月23日
FAG 22（11－8、11－10）18 大阪選抜

▼第2戦 3月24日
大阪選抜 19（8－8、11－10）18 CVJMフェルバッハクラブ

▼第3戦 3月25日

大阪選抜 26（13 13／12 12）24 ミュンヘン・オストクラブ

▼第4戦 3月26日
大阪選抜 28（13 15／14 13）27 ミュンヘン1880クラブ

▼第5戦 3月27日
フライジング1919クラブ 24（14 9／10 14）23 大阪選抜

▼第6戦 3月28日
大阪選抜 34（18 16／4 4）8 フョードル・リネン・ギムナジウム

▼第7戦 3月30日
アーヒム高校選抜 26（14 12／12 12）24 大阪選抜

▼第8戦 3月31日
大阪選抜 20（9 11／7 9）16 グルュワイスタンケルゼン

▼第9戦 4月1日
シュレスヴィヒ・ホルスタインクラブ 26（16 10／12 7）19 大阪選抜

◇女子◇

▼第1戦 3月23日
FAG 21（14 7／12 6）18 大阪選抜

▼第2戦 3月24日
大阪選抜 18（10 8／8 3）11 CVJMフェルバッハクラブ

▼第3戦 3月25日

大阪選抜 24（13 11／5 5）10 ミュンヘン・オストクラブ

▼第4戦 3月26日
大阪選抜 22（11 11／6 5）11 ミュンヘン1880クラブ

▼第5戦 3月27日
大阪選抜 24（12 12／5 6）11 フライング1919クラブ

▼第6戦 3月28日
大阪選抜 15（10 5／7 4）11 フョードル・リネン・ギムナジウム

▼第7戦 3月30日
大阪選抜 17（8 9／6 9）15 アーヒム高校選抜

▼第8戦 3月31日
大阪選抜 23（12 11／6 3）9 ヘーフェルステット

▼第9戦 4月1日
シュレスウィヒ・ホルスタインクラブ 23（13 10／7 7）14 大阪選抜

ホンコン招待試合

韓国圧倒的な強さ 日本に精神的弱さ

ウガンダが不参加で5ケ国でのリーグ戦となった。ホンコンの雨季に当たり、バスケットボール用のコート面積しかとれない小さな体育館での試合となったが、ナショナルチームの韓国が圧倒的な強さを発揮して優勝した。日本は2位となったが、本田洋監督は「精神的な弱さがあった」と試合後語っていたが、今後に話題を残した遠征でもあった。

◆第2回ホンコン・ハンドボール招待試合
4月20－22日 ホンコン・ビクトリア・パーク
〈参加国・ホンコン、日本、中国、韓国、シンガポール〉

●4月20日
中国 34（17 17／9 4）13 ホンコン
韓国 55（28 27／3 4）7 シンガポール
韓国 40（26 14／8 6）14 ホンコン
日本 20（8 12／9 7）16 中国

▼4月21日
日本 28（12 16／6 4）10 ホンコン
中国 49（32 17／9 2）11 シンザポール
ホンコン 37（21 16／3 5）8 シンガポール
韓国 40（21 19／17 17）34 日本

▼4月22日
日本 53（30 23／4 4）8 シンガポール
韓国 28（14 14／16 11）27 中国

〔順位〕①韓国、②日本、③中国、④ホンコン、⑤シンガポール

中正カップ

貴重な経験を積んだジュニアチーム

中学生もまじえた若い選手で編成した日本のジュニアチームは、大会前の合宿も少なく、台北の高温（27度）でコンディショニングに苦しんだが、若い選手たちは試合ごとに調子を上げ、各選手の力をずいぶんと上げることができた。この貴重な経験は今後大きなプラスとなることだろう。

◆第4回中正カップ
4月17日～21日 台湾台北市
日本ジュニア・チーム参加

▼4月17日
中華民国 25（14 11／11 7）18 日本

▼4月18日
日本 13（7 6／9 3）12 西ドイツ

▼4月19日
アメリカ 38（21 17／3 12）15 日本

▼4月21日
韓国 40（19 21／14 8）22 日本

イオン・クンスト《ルーマニア》のハンドボール

56年度公認ハンドボールコーチ研修会より

●第4報●　日本女子体育大学　笹倉清則



今回は、2月5日午後の研修内容です。午後の研修は、体育館で午前の講議（第3報参照）に基づく実技です。その為、前回の報告と重複する点も多いと思いますので御了承下さい。

また、実技協力は、筑波大学男子ハンドボール部員です。

研修内容

1　一次速攻練習

その(1)…GKからのワンマン速攻

GKは、監督から投げられたボールを確保し、FPにパスをする練習です。

※次のFPの動作(シュートetc)の為に効率の良いパスをする。

※この練習は、40回ぐらい行わなければならない。

でも500回パスをします。GKは、最低良くなる為にはそれ位やらなければなりません。

その(2)…GKからFP2人の速攻

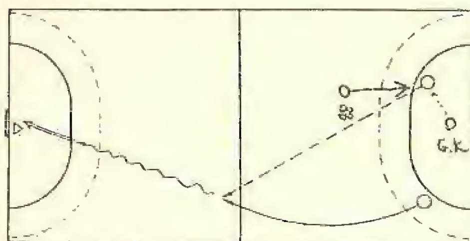
次はサイドプレーヤー2人での速攻を行います。監督が投げたボールをGKが確保し、その間に右サイドプレーヤーはスタート、少し遅れて左サイドプレーヤーが走り出すところにGKはパスをして、それを先にスタートしたプレーヤーにパスをする練習です。

それでは、GKからパスを受けパスをする人の動きを見てみましょう。

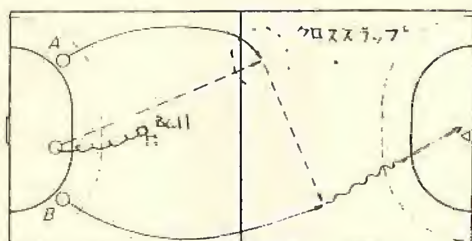
パスをする人は、パスの際クロスステップして下さい。何回も練習するとうまくなります。左サイドの人はパスするのは簡単ですが、右サイドの人はむずかしいです。

右ききの人にとって、左からくるパスと右からくるパスとでは、異なる為に、監督は、教える時に相手のきき手を考えて適確なパスをする様に注意します。

〈図1－1〉



〈図1－2〉



2　GKのパス練習

その(1)…監督の出すいろいろなボール（バウンド・高いボール等）を早く確保してパスをする練習です。GKは、ボールに合せ、サイド・クロスステップ等によりいろいろな体勢から正確なボールを出す練習です。

　FPは、速攻のスタート練習して短いダッシュの練習にもなります。

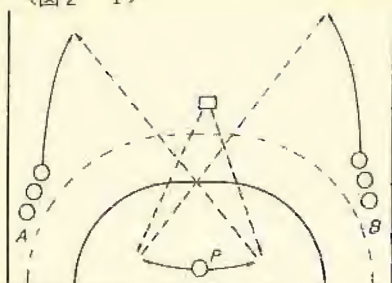
その(2)…GKは、A・BのFPの左右の移動に合せて正確で早いパスを行う。

　Aはキャッチをしたら GKにかえし、次にGKは、Bにパスをする。

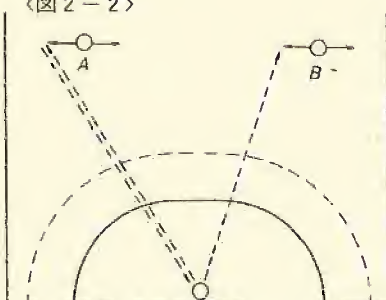
　これをくり返し行わせる。

その(3)…監督は、いろいろなボールをできるだけ早くGKに出し、GKは、そのボールを素早く処理して、A・B交互にFPにパスをする。FPは、パスをキャッチした後ドリブルをしてPの地点まで行き、ボールを返す。また、FPは、ゴールキーパーがボールを取ってから素早くスタートさせる様にする。

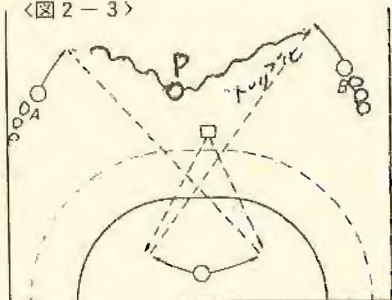
〈図２－１〉



〈図２－２〉



〈図２－３〉



3　いろいろな状態でのボールキャッチとパス練習

その(1)…３人が前後で左図の様な状態になりパスを行う。

　前にいる人は、足を踏みかえることによって、左右の人にボールを投げやすい体勢をつくる。あくまでも速攻でのパスキャッチを練習しているのだから、体は常に前方を見ながら速いパスを行う。

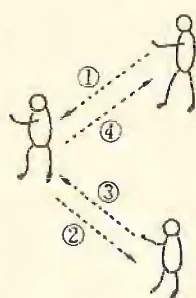
その(2)…Aはダッシュしてセンターライン近くでBからパスを受け、走りながらCにパスし、再びUターンしてダッシュしCからボールを受けBにパスする。これを１人で４～５往復くり返す。あくまでもダッシュで!!

その(3)…今度は、両サイドに３～４人ずつで交代で行う。自分の順番がまわってくるまで、他の者は、①10回膝の屈伸をする。②腕立て伏せを10回行う。③腹筋（ジャックナイフ）を10回行う。

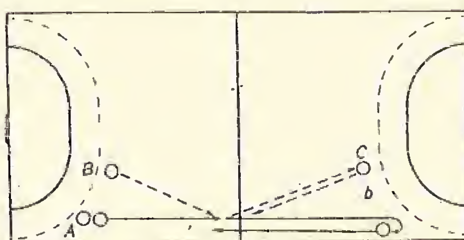
この①～③を一循したら順に行う。

その(4)…FPはスタートしたらAからパスを受けたら、Bへパスし再びBからパスを受け、Cへパス、またCからパスを受けDへ

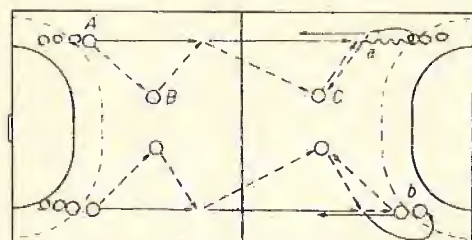
〈図３－１〉



〈図３－２〉



〈図３－３〉



……そして最後はシュートという練習です。

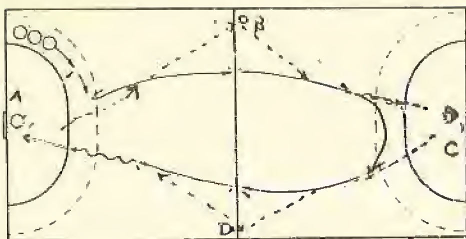
この時は、最後まで早く走ることと、決してエリア内に入らない事に注意して下さい。

※クンスト氏の話、無条件反射と条件反射の話

神経刺激を電流に例えていえば、電流の量を多くすれば反射も激しくなります。今出した例は、みんな学校で習ったことだと思います。のろのろ走ったのでは、十分なトレーニングにはならない。最高のスピードでやらなければなりません。とにかく速さを競わねばなりません。

監督・コーチは、一生懸命おだてて激励してやらせることです。

〈図3－4〉



4　シュート練習

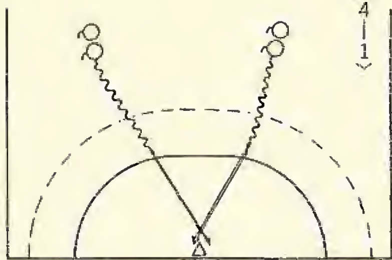
その(1)…2列に並んで順に、ドリブルしてシュートし、その後再びドリブルで反対の列に戻る。

この時、バーにあたるシュートが多い。プレーヤーは、常に自分はナショナルチームのプレーヤーである。今、ルーマニアと試合をしていて18対18であと残り7秒、自分はドリブルをしてボールの目前まで単独速攻に出ている。この1点を決めれば……という様な精神的な集中をする。

この心理的な心の問題。これを理解しなければならない。私はいつも選手に言っているが、わかってくれないことが多い。それを克服する為にも、練習に活用しなければいけません。

その(2)…(1)同様の型でドリブル後ランニングシュート。

〈図4－1〉



その(3)…同様に、ワンドリブルでシュート。シュートは、ジャンプからランニングシュート。

その(4)…中央にパサーを置いてボールを受けワンドリブルしてからジャンプシュート。

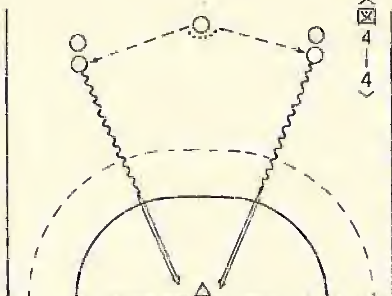
走ってボールを受けノードリブルでジャンプシュート。同様にランニングシュート、右足ジャンプシュート等と状況に応じてシュートをする。

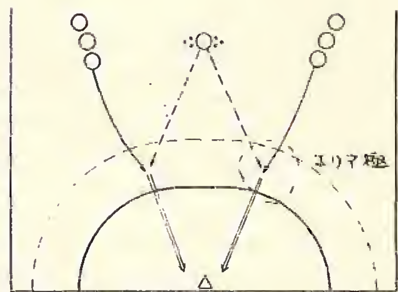
今度は、パサーは、ゴールエリア付近でパスをし、シューターは、ラインを見ずにノードリブルでシュート。この時も、その場に応じたシュートを行う。

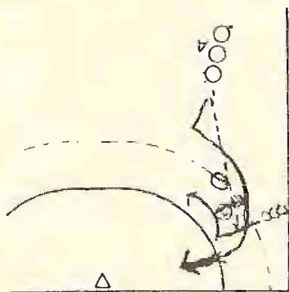
その(5)…サイドと45度のクロス。45度からパスに合せ、サイドがカットインし、45度にリターンパス、45度がシュート。

次に逆も行います。

〈図4－4〉







5　速攻でのパスワーク

その(1)…2人でのランパス

2人がパラレルの状態で走りながらパスを行う。スピードで行う。パスは必ずショルダーパスで行う。2人の間隔は5m位からゴールエリアラインの幅まで、次第に広げていく。

また、上図の○印の所でボールを受けた人は、相手がある程度走

るまでワンドリブルして間をとりパスする。

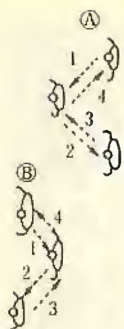
その(2)…3人でのランパス

左図Ⓐの様な3人の状態で、下図〈5－2〉の様にスピードで走りながらパスをする。

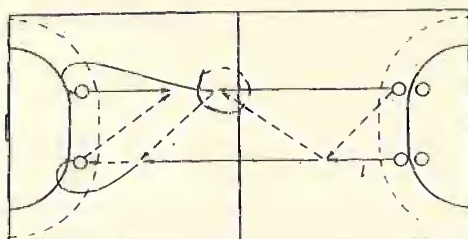
今度は逆でⒷ、中央の人が両サイドの人より後方に位置し、同様に走りながらパスをし、最後はシュートする。

その(3)…スリークロス

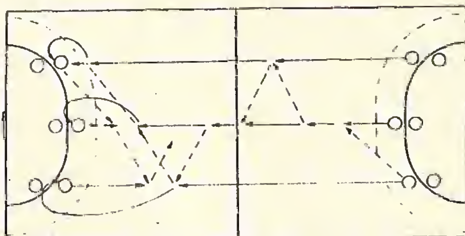
3人でスリークロスを行いながらボールを進め、最後はシュート。



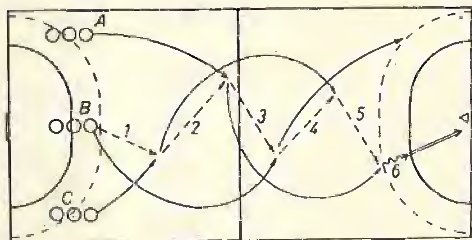
〈図5－1〉



〈図5－2〉



〈図5－3〉



6　攻撃のパスワーク

図の説明

6－1　ワンポスト

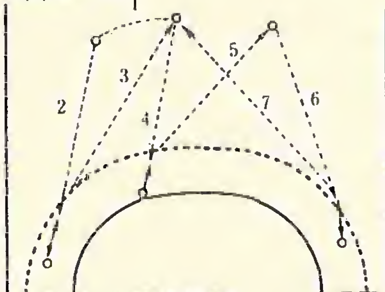
6－2　左側のパスをふやす

6－3　両サイドのパスをする

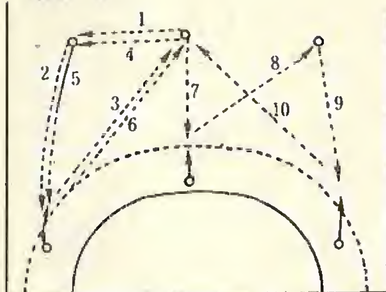
6－4　ダブルポスト

6－5　両サイドのパス

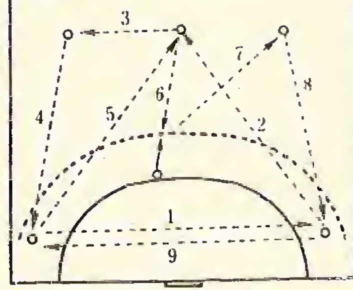
〈図6－1〉



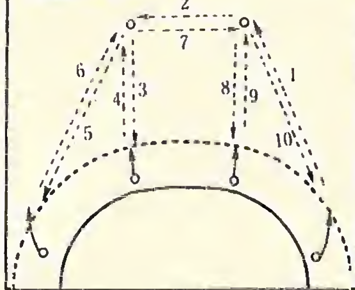
〈図6－2〉



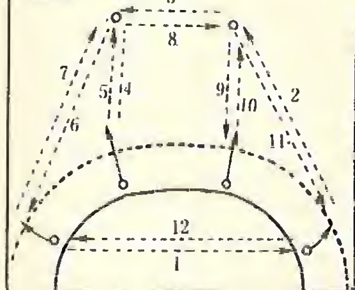
〈図6－3〉



〈図6－4〉



〈図6－5〉



IHFシンポジューム報告

第4回

『相手に対する動作』①

IHF/PRC（規則審判委）ヴェルナー・フィック（西ドイツ）

光島磯雄

友人であるBREGULA・TADEUSから与えられたテーマである「ルールと防御プレー」に関し若干要約してみることとする。明日およびその後の日で技術委員会および規則審判委員会の専門委員諸氏から発表紹介されることになっているテーマについてと、この中に含まれていないことについて問題点を掘りおこしてみたい。それは相手に対する動作における反則に罰則を段階的に適用することについてである。BREGULA・TADEUSはたった今、ルール（8—1～3）に合致する方法手段により相手プレイヤーを排除、制圧、克服する可能性というものは、はなはだ少なく、また、非常に困難を伴うものであると説明した。ルールには次のように記されてある。

次のことは許される。

8—1　ボールを得るために両腕および両手を使用すること。

8—2　いかなる方向からも開いた手で相手の所有するボールをはらい落とすこと。

8—3　相手がボールを持っていなくとも身体で相手の進路をさえぎること。

ルール8—1はさほど有用実際的とは受け取れない。これらの行為はハンドボールゲームの基本的要件としての範囲に属することである。

叩き落とすこと……

8—2においては、「ボールをはらい落とすプレー」という言葉の定義づけの困難さという外的状態が存在する。なんとなれば8—6はボールを叩き落とすことを禁じているからである。ボールがルールにのっとったやり方で相手の所有からうばうということは、すなわち効果的に成功させるべきことであり、常に俊敏で素晴らしく美事なものでなければならないのである。しかしながら、多くの場合我々はそれが、叩き落とすことあまりかかわらぬプレーにしてしまうのである。西独で数年前にこの件について定義付けの指針となるものをレフェリー諸氏に指示した。叩き落とすプレーとは、相手の身体の上から下までの部分のどれかを叩くことであり、ボールをはらい落とすプレーとみなすものはすべての危険をもたらす要因を除去した行為のことをいうのである。しかしながら、相手の身体のすべての部分に対する動作の現状は、すべて危険を招く叩く動作のように思われる。ルール8—3をみると、我々はまたまた頭を悩ませるような定義の存在に気付くのである。

旧ルールでは、相手の進路をさえぎるのはよいとされていた。新ルールでは、身体でさえぎるのはよいとされている。この両者は正確な表現ではない。胴体のみでということは両腕両手というものは、完全に含まれていない。これに反して両腕というものは身体に属するものとされている。確かに8—4では相手を両腕両手でブロックして妨害することは禁じられているものの、私が思うには、防御のために自然に腕が拡げられた姿勢、それが相手に触れている状態のときや前方に出した状態の両手でブロックすることの前駆動作としては許されるべきである。8—4～11ではすべて罰則を適用される禁止事項だけが記されている。この件については、私は後に再び明らかにしたいと思っている。現行のルールでは、ルール8には罰則の段階的適用について実質的に言及していない。これに関しては単にIHFから公式に提示された1981年版ルールについての指針と解説文中にのみ表明されている。このことは、罰則の適用基準の変動が徐々におこりつつあることを示す原因となる可能性がある。ルールブックに直結した型での草案は1985年発行予定のものに記載が見込まれている。段階的に罰則を適用すべき反則を識別することはレフェリーにとって至難の業である。このことはルール違反ということが、攻撃動作の方向とか攻撃動作の目的に

のみ優勢となったり、あるいはボールに対してではなく、相手プレーヤーのみを対象とする場合が適用基準となり、これこそ段階的に加重的に罰せられるべき意味合を持つものである。ただ単に相手プレイヤー自体に影響を与えるものでなく、ボールを対象とする上での相手に対するすべての反則は、ルール13によりフリースローによって罰する。段階的に罰則を適用する反則については、ルール17に説明をゆずる。防御プレイヤーが行なうそのとき、そのときの相手の攻撃を克服しようとする意図によるプレーと識別するのは、レフェリーの卓越した事実認定能力を裏付けとした使命なのである。すべての防御プレー、それは相手プレイヤーの動きと行動の自由をルールに反して制約したり、または完全に妨害したり、それがしかも意図的にボールを対象としない争いの場面となるときは、当然段階的罰則適用となるものである。これがみせかけの演技的なものであるか否かを区別して見わけることについては、集中力ある観察能力というものが必要となってくる。いわゆる賢い防御プレイヤーは片腕で攻撃プレイヤーをつかまえてホールディングであることを示したり、片方の腕を高くあげてボールの方向に伸ばした状態にしてそれがボールに対しての努力であるように信じさせようとすることがある。

この事実関係により、防御プレイヤーの相手に対する攻撃的意図が先行する状態となるので、罰則適用は段階的加重的方向に進むことになる。（17－1a、b、17－3d）。段階的に罰する「行為」に対しては解釈に幅を持たせたり、応揚さがあってはならないし、それには統一された基準線があり、それは能動的でかつ平易なものでなければならない。レフェリーがこの基準線を明示せず、終始変動をみせるような吹笛状態となるならば、そのことでレフェリーは新しく罰を負ったこととなり、これは彼らが、真の基準線を示すことが出来るまで続くこととなる。

加重的に進行する行為についての貸しを作ることは、たえがたいことであり相手に対する行為でくりかえされる判定ミスをするレフェリーと対立関係に及んでしまうものである。これは当然ながら帰結関係にまで及んでくることを意味する。攻撃側の反則について私は今朝正しい方法、意図で守ろうとする防御プレーを支持するため、無条件に攻撃側を罰する必要性を示唆したばかりである。攻撃側の反則について、それが段階的罰則適用対象となる場合、多くの問題が浮んで来たのである。これは全く動かずにいる防御プレイヤーに向って攻撃プレイヤーが全く思慮をはたらかせずに走って突き当たるという場合である。これに対しては段階的適用はもちろんのこと、粗暴反則としての極端な場合、と判定してよいことである。

突破進入の例

例を一つあげてみよう。攻撃プレイヤーが防御プレイヤーの前で突破進入をはかってフェイントモーションを行なった。防御プレイヤーは、タイミングよく正しく位置を先取りして、もしかしたら突破進入されたかも知れない防御の隙間をふさいでしまった。このとき避けられぬ両者の衝突がおこるが、これは攻撃プレイヤーの反則となるべきである。しかしながら、これを段階的適用の対象とすることは予想出来ない。しかしながら、この衝突が荒々しいものでないことが条件となる。

攻撃側の反則について他の側をあげてみる。利き腕の反対側にボールを持って防御隙間に突進しようとするプレイヤーがいる。これは右利きシュートを打つプレイヤーが、彼の前に立って守る防御プレイヤーの右肩の上にボールをさしあげて、前進しながら押し通ってシュートを行なうとする。防御プレイヤーは立止っているので、この場合ほとんど攻撃プレイヤーの反則となるべきである。このことは理論的に吟味検討されるべきであり、私としては慎重に考えるところを述べてみる。

この突破進入を行なうときにフェイントモーションが加り、その結果、防御プレイヤーが多少なりとも位置を変えたり、またはサイド方向への動きを示したりすれば、この突破進入は成功したものとして正しく評価される。上記の事を勘案しても、なお攻撃プレイヤーに2つの反則の可能性があるが、これはレフェリーの貧弱な注意力により発生し、しかも頻々として防御チームに不利益をもたらすものである。

1　パスをしたあと防御プレイヤーに突き当たるものと、
2　ジャンプパス、またはジャンプシュートモーションによるフェイントのあと、ボールを他方にパスするときとパスしたあと。

この2つの反則は、防御プレイヤーの行動の自由を全面的に制約するものである。このときのレフェリーの弁明は「ボールがすでにプレーされたあとなので直接の危険はおこらないものと考える」とあっても、これは受け入れ不可である。「直接の突破進入（カットイン）とかシュートそのものが、この場合行なわれずに、隣のポジションに向っての継続プレーで平行パスをしたりしたときのことをいうのである」。



第9回　日本ハンドボールリーグ日程表

（前　期）

開催日	会場	組合せ	
第1週第1日 6／9(土)	四日市体育館(三重)	(女子)14：30 立石電機×日本ビクター	(女子)15：50 ジャスコ×東京重機
第2日 6／10(日)	露橋スポーツセンター(愛知)	14：00 大崎電気×大和銀行	15：20 日立栃木×ブラザー工業
第2週第1日 6／17(日)	露像市民体育館(福岡)	13：00 日立栃木×大和銀行	14：30 立石電機×東京重機
第3週第1日 6／23(土)	大阪市中央体育館(大阪)	17：00 大崎電気×日本ビクター	18：20 ジャスコ×大和銀行
	京都府立体育館(京都)	15：30 立石電機×ブラザー工業	
第2日 6／24(日)	明石中央体育館(兵庫)	13：00 立石電機×大和銀行	14：30 大崎電気×ブラザー工業
	栃木市総合体育館(栃木)	14：00 日立栃木×東京重機	
第4週第1日 6／30(日)	岩井市立総合体育館(茨城)	13：00 大崎電気×東京重機	14：50 ジャスコ×日本ビクター

※ロサンゼルスオリンピック出場選手が多いため、男子は前期を行ないません。

（後　期）

開催日	会場	組合せ	
第1週第1日 9／8(土)	栃木市総合体育館(栃木)	(男子)14：00 湧永製薬×大崎電気	(女子)15：20 ジャスコ×日立栃木
	岩井市立総合体育館(茨城)	13：30 大同特殊鋼×本田技研鈴鹿	14：50 日本ビクター×ブラザー工業
第2日 9／9(日)	市川市民体育館(千葉)	13：30 日新製鋼×三陽商会	12：00 日立栃木×日本ビクター
第2週第1日 9／15(土)	岐阜県民体育館(岐阜)		15：30 立石電機×日立栃木
第2日 9／16(日)	福島県体育館(福島)	14：00 大崎電気×三陽商会	
第3週第1日 9／22(土)	京都府立体育館(京都)	15：00 湧永製薬×本田技研鈴鹿	16：30 立石電機×大崎電気
第2日 9／23(日)	明石市中央体育会館(兵庫)	14：30 湧永製薬×日新製鋼	13：00 ジャスコ×ブラザー工業
第3日 9／24(日)	奥武山体育館(沖縄)	14：30 大同特殊鋼×大崎電気	
第4週第1日 9／29(土)	福井県営体育館(福井)	16：00 大同特殊鋼×日新製鋼	
	四日市体育館(三重)	15：00 本田技研鈴鹿×三陽商会	14：30 ジャスコ×大崎電気
第2日 9／30(日)	富山県総合体育センター(富山)	14：30 日新製鋼×大崎電気	13：00 日本ビクター×東京重機
	露橋スポーツセンター(愛知)	15：30 大同特殊鋼×三陽商会	14：00 大和銀行×ブラザー工業
第5週第1日 11／3(土)	安芸区スポーツセンター(広島)	14：30 湧永製薬×三陽商会	13：00 大和銀行×東京重機
第2日 11／4(日)	久留米県立体育館(福岡)	15：00 本田技研鈴鹿×大崎電気	13：00 ブラザー工業×東京重機
第6週第1日 11／10(土)	函館市民体育館(北海道)	17：40 日新製鋼×本田技研鈴鹿	16：00 大崎電気×日立栃木
	熊本県立総合体育館(熊本)		16：00 立石電機×ジャスコ
最終日 11／17(土)	大阪市中央体育館(大阪)	18：20 湧永製薬×大同特殊鋼	17：00 大和銀行×日本ビクター

各地の試合から

全国高校選抜中国地区予選

（1月28、29日）

〈男子〉

▼決勝リーグ

下松工 27－14 総社
境 38－17 松江工
修道 19－13 総社
下松工 35－15 境
修道 23－21 松江工
総社 28－15 松江工
境 17－11 修道
下松工 30－10 松江工
総社 23－15 境
下松工 26－17 修道

［順位］①下松工（山口）②総社（岡山）③境（鳥取）④修道（広島）⑤松江工（島根）

〈女子〉

▼決勝リーグ戦

熊毛北 18－5 境
山陽女 22－7 松江市女
境 14－1 操山
山陽女 15－5 熊毛北
松江市女 10－5 操山
境 12－6 松江市女
山陽女 24－2 操山
熊毛北 20－7 松江市女、
山陽女 23－4 境
熊毛北 23－1 操山

［順位］①山陽女（広島）②熊毛北（山口）③境（鳥取）④松江市女（島根）⑤操山（岡山）

第59回愛知県実業団リーグ戦

（1月17～2月6日）

▽男子1部

大同特殊鋼 35－3 豊田自動織機
大同特殊鋼 33－16 トヨタ自動車
トヨタ自動車 29－14 豊田自動織機
トヨタ車体 31－18 豊田合成
新日鉄名古屋 22－17 豊田自動織機
大同特殊鋼 40－3 豊田合成
トヨタ自動車 33－18 新日鉄名古屋
トヨタ車体 22－21 新日鉄名古屋
新日鉄名古屋 30－18 豊田合成
トヨタ車体 27－16 豊田自動織機
大同特殊鋼 26－8 トヨタ車体
豊田合成 17－16 豊田自動織機
トヨタ自動車 20－17 トヨタ車体
トヨタ自動車 33－16 豊田合成
大同特殊鋼 34－14 新日鉄名古屋

［順位］①大同特殊鋼②トヨタ自動車③トヨタ車体④新日鉄名古屋⑤豊田合成⑥豊田自動織機

▽男子2部

東海理化電機 20－14 ブラザー工業
日本電装 33－12 日本碍子
豊田工機 39－17 パイロットインキ
日本碍子 17－12 パイロットインキ
日本電装 20－8 ブラザー工業
日本電装 25－13 東海理化電機
豊田工機 38－20 ブラザー工業
日本碍子 16－16 東海理化電機
日本電装 28－14 パイロットインキ
日本碍子 22－8 ブラザー工業
ブラザー工業 12－10 パイロットインキ
豊田工業 34－18 日本碍子
日本電装 18－16 豊田工機
東海理化電機 15－6 パイロットインキ
豊田工機 24－19 東海理化電機

［順位］①日本電装②豊田工機③東海理化電機④日本碍子⑤ブラザー工業⑥パイロットインキ

第23回東海室内選手権 第12回東海高校室内選手権

（2月18、19日）

〈一般男子〉

▼1回戦

大同特殊鋼（愛知） 26－16 二俣クラブ（静岡）
本田技研鈴鹿（三重） 34－9 アシスト岐阜（岐阜）

▼決勝

大同特殊鋼 14（7－7、7－5）12 本田技研鈴鹿

〈一般女子〉

▼1回戦

ジャスコ（三重） 22－8 ポストクラブ（静岡）
ブラザー工業（愛知） 34－6 腕満会（岐阜）

▼決勝

ブラザー工業 17（8－8、9－6）14 ジャスコ

〈高校男子〉

▼リーグ戦

富士 21－16 大垣農
桜台 22－17 四日市工
桜台 19－14 富士
四日市工 35－14 大垣農
富士 17－11 四日市工
桜台 19－12 大垣農

［順位］①桜台（愛知）②富士（静岡）③四日市工（三重）④大垣農（岐阜）

〈高校女子〉

▼リーグ戦

名短付 10－3 静岡
暁 18－9 本巣
名短付 13－6 本巣
暁 11－9 城北
名短付 15－8 暁
城北 11－5 本巣

［順位］①名短付（愛知）②暁（三重）③城北（静岡）④本巣（岐阜）

第15回岡山県高校室内選手権

（1月28、29、2月5日）

〈男子〉

▼1回戦
天城 11—9 岡山工
倉敷工 14—10 一宮
倉敷商 26—15 邑久
芳泉 16—12 落合
水島工 14—9 西大寺
津山 9—7 関西
児島 14—10 青陵
玉野 15—9 古城池

▼2回戦
倉敷工 15—14 天城
倉敷商 15—14 芳泉
水島工 17—8 津山
児島 13—12 玉野

▼準決勝
倉敷工 16—15 倉敷商
児島 16—16 水島工
3PTC1

▼3位決定戦
倉敷商 25—17 水島工

▼決勝
倉敷工 26（15—4、11—5）9 児島

▼優勝決定戦
総社 22（10—4、12—6）10 倉敷工

〈女子〉

▼1回戦
総社 9—7 天城
芳泉 11—7 津山
西大寺 8—6 真備
落合 9—9 倉敷商
1PTC0

▼準決勝
総社 10—2 芳泉
西大寺 10—5 落合

▼3位決定戦
落合 17—14 芳泉

▼決勝
西大寺 7（3—0、4—2）2 総社

▼優勝決定戦
西大寺 9（2—3、7—1）4 操山

三重県春季選手権

〈一般男子・4月15日〉

▼1回戦
本田技研 49—1 鳥羽商船
三重教員 29—17 鵜の森ク
尾鷲ク 31—13 半田ク
セブンスターズ 25—21 本田爽風会

▼準決勝
本田技研 38—6 三重教員
セブンスターズ 32—21 尾鷲ク

▼決勝
本田技研 21（13—4、8—7）11 セブンスターズ

〈高校男子・4月15、22、29日〉

▼1回戦
津 キケン 日生第二
四日市西 24—8 津西

▼2回戦
四日市工 35—6 津
尾鷲 20—7 桑名西
高田 25—14 津東
津工 12—9 四日市南
海星 19—15 亀山
桑名 15—13 桑名北
桑名工 28—5 四日市中央工
四日市 12—10 四日市西

▼3回戦
四日市工 13—12 尾鷲
津工 12—6 高田
桑名 16—13 海星
桑名工 21—13 四日市

▼準決勝
桑名工 14—13 桑名
四日市工 27—8 津工

▼3位決定戦
桑名 19—11 津工

▼決勝
四日市工 23（15—6、8—7）13 桑名工

〈高校女子・4月15日〉

▼1回戦
尾鷲 13—9 四日市
四日市南 8—5 津東
四日市商 9—4 四日市西

▼2回戦
暁 18—4 尾鷲
亀山 35—2 津
四日市南 6—3 桑名
上野 8—7 四日市商

▼準決勝
暁 24—4 亀山
上野 14—10 四日市南

▼3位決定戦
四日市南 16—10 亀山

▼決勝
暁 25（13—5、12—2）7 上野

〈中学男子・4月22、29日〉

▼1回戦
菰野 24—5 富田

▼2回戦
西朝明 23—7 東員第二
明和 21—4 東員
亀山 16—3 白子
西笹川 21—9 菰野

▼準決勝
西笹川 22—3 亀山
西朝明 19—11 明和

▼決勝
西笹川 20（8—2、12—1）3 西朝明

〈中学女子・4月22、29日〉

▼1回戦
菰野 22—1 白子
羽津 19—7 北勢
大安 28—2 名張北
明和 キケン 赤目
朝明 16—3 柘植
西朝明 12—1 笹川
桔梗ケ丘 24—2 東員第二
西笹川 20—4 亀山

▼2回戦
菰野 8—4 羽津
朝明 11—3 西朝明
西笹川 20—9 桔梗ケ丘
大安 13—8 明和

▼準決勝
菰野 21—5 大安
朝明 12—11 西笹川

▼決勝
菰野 12（6—3、6—3）6 朝明

和歌山県春季選手権大会

（4月29、30日）

〈一般男子〉

▼1回戦
県和商ク 24－21 笠田ク
丸善石油 25－18 和高専
和医大 14－8 和高専ＯＢ
応神ク 22－17 桐蔭ク

▼2回戦
県和商ク 26－20 御坊ク
丸善石油 31－25 市和商ク
和医大 20－17 那賀ク
住友金属 34－16 応神ク

▼準決勝
県和商ク 28－11 丸善石油
住友金属 28－11 和医大

▼決勝
県和商ク 26（13－14、13－10）24 住友金属

〈一般女子〉

▼決勝
県和商ク 16（8－10、8－4）14 粉河ク

〈高校男子〉

▼1回戦
桐蔭 24－21 耐久
御坊商工 28－24 新宮
県和商 12－11 市和商

▼2回戦
那賀 55－9 和東
笠田 19－18 桐蔭
御坊商工 21－14 箕島
県和商 22－13 粉河

▼準決勝
那賀 22－9 笠田
御坊商工 19－12 県和商

▼決勝
那賀 17（7－7、10－7）14 御坊商工

〈高校女子〉

▼1回戦
那賀 13－8 貴志川
県和商 11－3 御坊商工

▼準決勝
粉河 13－4 那賀
笠田 14－12 県和商

▼決勝
粉河 23（12－2、11－4）6 笠田

〈中学男子〉

▼予選Aトーナメント
○1回戦
貴志川 30－5 湯浅
白馬 31－8 打田
○勝者戦
貴志川 22－11 白馬
○敗者戦
湯浅 20－16 打田
○敗者最終戦
白馬 15－8 湯浅

▼予選Bリーグ戦
岩出 32－8 金屋
岩出 13－9 那賀
那賀 22－16 金屋

▼準決勝
貴志川 20－19 那賀
岩出 32－9 白馬

▼決勝
岩出 11（5－3、6－1）4 桃山

〈中学女子〉

▼予選Aリーグ戦
岩出 28－5 粉河
岩出 14－3 桃山
桃山 15－7 粉河

▼予選Bリーグ戦
那賀 19－7 金屋
那賀 12－6 貴志川
貴志川 12－8 金屋

▼準決勝
岩出 19－1 貴志川
桃山 7－3 那賀

▼決勝
岩出 18（10－4、8－5）9 貴志川

福井県前期大会

〈一般男子〉

▼1回戦
羽球会 20－18 パーリングＳＣ

▼2回戦
福井教員 33－15 羽球会
ボンバーズ 16－15 動燃
光陽会 22－8 勝山ク
北陸電力 24－17 若狭愛球会

▼準決勝
福井教員 21－10 ボンバーズ
北陸電力 24－21 光陽会

▼決勝
福井教員 22（12－5、10－7）12 北陸電力

〈一般女子〉

▼決勝
武商ＯＧ 27（16－5、11－3）8 ママさんク

〈高校男子〉

▼1回戦
羽水 13－12 福井商
武生 13－12 丹南
藤島 27－3 勝山
北陸Ｂ 18－11 科学技術

▼2回戦
北陸 35－6 羽水
高志 23－11 武生
藤島 22－17 福井高専
金津 23－8 北陸Ｂ

▼準決勝
北陸 34－19 高志
金津 19－2 藤島

▼決勝
北陸 25（12－12、13－3）15 金津

〈高校女子〉

▼1回戦
仁愛女 21－5 高志
藤島 9－7 武商
北陸 10－7 羽水
福井商 30－4 福井女

▼準決勝
仁愛女 22－5 藤島
福井商 27－10 北陸

▼決勝
福井商 16（6－8、10－7）15 仁愛女

第29回中国一般鳥取県予選

（4月22日）

〈男子〉

▼リーグ戦
アシックス 39－9 鳥取大
アシックス 34－23 中部ク
中部ク 34－19 鳥取大

〔順位〕①アシックス　②中部クラブ　③鳥取大

〈女子〉

▼決勝
アシックス 27－6 スランプ

第35回中国高校鳥取県大会

（4月21、22日）

〈男子〉

▼1回戦
米子北 27－6 米子西
倉吉工 34－8 倉吉東
境港工 34－13 米子東

▼準決勝
境 28－5 米子北
境港工 16－15 倉吉工

▼決勝
境港北 25（12－6、13－12）18 境

〈女子〉

▼1回戦
倉吉産 20－6 米子北
米子西 11－7 米子東
米子南商 26－10 倉吉西

▼準決勝
境 38－4 倉吉産
米子南商 18－4 米子西

▼決勝
境 15（6－4、9－3）7 米子南商

DESCENTE

生存のすべてを託す、一球のシュートもある。

スポーツマンたちは激しい練習に耐える。それは満足のいくプレーを行うためである。
自らが描いたイメージを、自らの肉体によって実現することが、
彼らの目標であり、彼らのよろこびでもある。
それが無為な行為だとしたら、ロマンと呼んでいいかも知れない。
それこそが、スポーツマンたちの生活そのものであるから。
「アディダス」ハンドボールウェアは、最新の機能で彼らのロマンに応えます。

adidas®

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二三〇号
昭和四十年六月[illegible]日 第三種郵便物[illegible]可
昭和五九年五月二十五日印刷
昭和五九年六月一日発行
東[illegible]渋谷区神南一ー一ー一
電[illegible] 表(481)二三六一
振[illegible]京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）